

根城悌司議員

質問①

坂下町政4期16年の総括と5期目の出馬について

問 本年は管内においては町長選挙の年であり、すでに新冠町、えりも町においては新しい町長が誕生している。この秋には当町の町長選が予定されているが、坂下町長はこれまで町長選に対し何ら述べられていない。4期16年間、町民の信頼を受け連続無投票当選を続けてきたが、この16年をどのように総括しているか。

答 これまで4期16年間の長きにわたり、ご支援・ご協力をいただいた議員並びに町民の皆様にお礼を申し上げるとともに、町政執行に全力で対応いただいた職員に対し、心からの感謝を申し上げる。平成12年12月助役に就任し、2期目の途中に前町長の長期入院に伴い、平成17年10月に6代目町長として就任し、今日まで心から町と町民を愛し、意欲と熱意を持ちながら町政の舵取りを心がけてきたが、年齢も73歳、衰えを感じる年代となり、複雑多様化している地域社会においては新しいリーダーの誕生が必要と思っている。就任当時は最悪の財政状況にあり、平成10年から行財政改革を進め、ソフト事業を中心に住民サービスの質を下げないことに苦労しながら、町民のご理解とご協力のもと平成23年3月末まで13年間にわたって財政の健全化を図り、その後は再び財政難を引き起こさないよう事業の優先選定を行い、様似小学校改築及び様似中学校移転改築、西町第2団地移転改築、イチゴ就農支援制度創設、イチゴ用ビニールハウス整備制度創設、農業・漁業振興補助制度創設、地域おこし協力隊制度導入、さらに3期目には、様似ソビラ荘移転改築支援、日高中央漁協様似支所荷捌場改築支援、イチゴハウス増設とひだか東農協イチゴ選果場新設支援、町内診療所の存続支援、第8次総合計画の策定、第1次地方創生総合戦略並びに人口ビジョン策定、東京事務所の開設とふるさと応援大使制度創設、ふるさと納税返礼品制度、平宇団地改築と西町第2団地の解体、ユネスコ世界ジオパークの認定等に取り組み、4期目ではインフルエンザ予防接種助成拡大、医療費無料化拡大、えりも漁協昆布集荷施設整備支援、ひだか東農協規格外イチゴ冷凍庫支援、日高中央漁協様似支所水産物の冷凍施設整備支援、し尿処理のMIC式スクールランS化、様似方式スクールランチの導入、JR日高線廃止に伴う日高地域公共交通体系の確立、アイヌ政策推進交付金等を実施し、さらに本年度スタートする第9次総合計画を策定し、残された懸案事項の実施に道筋をつけることができたと思っている。

問 5期目の出馬について すでに9月21日告示、9月26日投票日と決定されている中でどのように考えているか。もし、出馬を考えているのであれば、この場で力強く決意を表明すべきと思うがいかがか。

答 町長職も長くなるほど町政の変化を求める声も高くなり、また以前に大病を患うなど体調にも不安を抱えており、特に多大な迷惑をかけた様似観光開発公社の整理解散における責任問題も考える中で、社長であった私が責任をとるべきと考え後援会とも相談の上、辞職のタイミングを探っていたが、今任期をもって引退し、次期町長選挙には出馬しない考えである。

引退する理由の一つとして観光開発公社の整理解散の責任を言われたが、町長職を辞するまでの責任とはならないと思う。しかし、引退の意思が固いこともあり、引退することには理解する。残りの任期に全力を傾注していただくとともに、16年間町長職を務められたことに敬意と感謝を申し上げる。



▲ 移転改築後のソビラ荘



鈴木隆議員

質問①

新型コロナウイルス感染症対策について

問 町で把握している陽性者は何人ですか。

答 日高振興局管内では、227名の方の感染が報告されており、5月は130名、6月に入って13名の感染者が報告されています。現在まで北海道からの情報提供はありませんので、正確な陽性者数は把握しておりません。把握しております陽性者数としましては、公にされている情報から、居住者2名と町内企業の従事者3名となっております。

問 介護施設・学校、企業の職場などクラスターになりやすい場所で抗原検査キットをPCR検査と組み合わせて活用する新たな「検査戦略」について、クラスターを防ぐために大規模に取り組む必要があると思いますが町としての考えはありますか。

答 現段階での様似町の感染状況等からすると、介護施設・学校、企業の職場などにおいて、「新たな検査戦略」のような取り組みをするまでの必要性は低いものと考えております。ただし、今後クラスターの発生や、感染者の発生などによりまして、その後の感染者等を早期に把握して、感染拡大防止対策を講じる必要性が出てきた場合には、仰るような「検査戦略」的な取り組みも必要となってくることも考えられます。

問 ワクチン接種の進行状況と今後の予定は。

答 先週6月18日までに、65歳以上の方が1,485人、1回目の接種を終えており、そのうち660名の方が2回目も終えております。その他、医療関係の従事者では、63名が1回目を、うち59名は2回目も終えております。介護施設の従事者は、72名が1回目を、うち45名が2回目の接種を終えております。当初の予定では8月中にはワクチンがある予定で接種を終わらせる予定でいたのですが、現時点で12歳から18歳までの200人分のワクチンの供給がないような状況ですので、いつ供給があるかも、国の方から通知がきていない状況ですので、当初見込んでいた8月中に2回目の接種が終わるというところはちょっと延びていくかなという風に考えております。

質問②

生理の貧困について

問 コロナ禍の中、経済的事情で生理用品が購入できない「生理の貧困」が世界各国で社会問題となり、日本でも「生理用品の無料配布を」の運動が急速に広がっています。「貧困対策にとどめず、トイレットペーパーのように生理用品が当たり前にある社会に」と求めていますが町としてはいかがですか。

答 町内における「生理の貧困」の現状を確認する方法は持ち合わせておりませんが、全くないとも断言しきれません。貧困対策にとどめず、トイレットペーパーのように生理用品が当たり前のようにある社会と言っても、本町の現状を踏まえ、また、生理にはどんなケアやコストが必要かなど、人によって生理に対する理解がまだまだ浸透していない環境にあると思いますので、今すぐ設置する考えは持っておりませんので、真に貧困で困っている方の支援策を検討して参りたいと考えております。

質問③

野生動物の現状について

問 過去5年間の駆除数を教えてください。

答 2016年度は、ヒグマ5頭、エゾシカ963頭、キツネ24頭、アライグマ11頭。2017年度は、ヒグマ3頭、エゾシカ1，666頭、キツネ34頭、アライグマ25頭。2018年度は、ヒグマ6頭、エゾシカ1，185頭、キツネ24頭、アライグマ19頭。2019年度は、ヒグマ4頭、エゾシカ1，053頭、キツネ19頭、アライグマ22頭。2020年度は、ヒグマ3頭、エゾシカ 1，999頭、キツネ40頭、アライグマ21頭です。

問 駆除金額、処理方法、処理に関する予算は。

答 ヒグマ10，000円 エゾシカ10，000円、キツネ3，000円、アライグマ3，000円。処理方法については、駆除した動物を冷凍コンテナで一時保管し、その後業者に委託し、日高町や新冠町の施設へ搬入しています。処理に関する予算は今年度で総額27，048千円の歳入を計上しています。

問 エゾシカの特産物としての活用方法は。

答 特産物としての活用方法を検討するまでには至っていない状況です。